

Alumni Bulletin 100

桜工

2018

桜工100号記念号



目 次

新会長・前会長校友会長挨拶	2
就任挨拶 輝かしい次の100年への飛躍を「木田 哲量」	
退任挨拶 「継続は力なり」校友の絆「深澤 豊史」	
新理工学部長挨拶	3
CST × DREAM が築く理工学部の新世紀「岡田 章」	
特集 桜工100号発刊によせて	4
『駿工』から『桜工』へ	
『桜工年表』／『日本の主な出来事／自然災害』／	
『大学の変遷』	
活躍する校友・100号によせて	10
栗原 幸一／小嶋 勝衛／庄司 秀夫／松田 樹一	
越智 健二／仲 滋文／篠沢 達也／高田 邦道	
入江 寿弘／大澤 弘敬／河西 英孝／大渕 一央	
入試・進路	16
部会だより	19
土木／建築／機械／電気／工業化学／物理／数学／交通	
精密機械／海洋建築／航空宇宙／電子／まちづくり／	
応用情報	
支部一覧	26
支部だより／クラス会だより	28
理工学部・校友会NEWS	32
理工学部校友会教育支援／ホームカミングデー／就職支援	
平成29年度理工学部校友会奨学生証書授与式	
各部会講演会活動報告	
事務局だより（事務報告・収支報告等・会費納入者名簿）	35
平成29年度第二十九回「桜工賞」	38
震災復興特集 熊本県地震を体験して「菊池 崑」	39
岡田章先生の理工学部長就任を祝う会	40

新会長・前会長挨拶

就任挨拶

輝かしい次の100年への飛躍を

会長 木田 哲量

(土木工学科: S42年卒)

(建設工学専攻 修士課程: S44年修了)

平成29年6月16日に開催された「平成29年度日本大学理工学部校友会通常総会」で第26代会長に選任され、就任しました土木工学科1967年(S42年)卒業の木田哲量です。もとより浅学菲才と認識しておりますが、日本大学関係各位並びに会員諸兄各位からの暖かくも厳しいご指導を賜りまして、先輩諸兄が嘗々と築かれました輝かしい伝統を大切にしつつ本務を全うする所存であります。



ご承知の通り、2019年(平成31年)は日本大学創立130年であり、既に数多くの記念事業が施行されていますので、全力で協力させて頂く所存です。また、翌2020年(平成32年)に理工学部は記念すべき創設100年を迎えます。この理工学部の記念事業には、誠実かつ懸命にご協力させて頂きます。なお、校友会としての記念誌の編集なども考えております。

また、校友会が遂行すべき通常業務は各部会と連携しまして会員の皆様が豊かな親密性を感じるよう努力いたす所存です。その一環として、従来からの運用姿勢を尊重しつつ、常任幹事に若手層の参画を願えるように会則の見直しなども考慮しています。

本会は学部の学科ごとに設置されている14部会と全国各道府県に設立されている39支部および各職場に設けられている12職域支部から構成された22万弱の正会員を擁しています。部会・支部は自主的に活動しております。そのうちの主な事業は、学生会員の就職活動支援・講演会開催、卒業生名簿の整備、機関誌「桜工」の発行、卒業生が母校を訪ねる「ホームカミングデー」の共催、学生の教育・研究活動「未来博士工房」などの支援、学生就学支援へ「奨学金の充実」、支部との協力を強化する「支部長会議」などです。

1920年(大正9年)6月1日に設立認可された日本大学高等工学校が理工学部の前身であり、この高等工学校の同窓会「駿工會(1924年(大正13年)創立)」が理工学部校友会の祖でありますので、輝かしい伝統を誇りとしまして母校の更なる発展に役立つために、校友会役職員一同が誠心誠意を持ちまして努める所存でございますので、これまでに倍するご支援とご鞭撻を伏してお願い申し上げまして、会長就任のご挨拶とさせて頂きます。

退任挨拶

「継続は力なり」校友の絆

前会長 深澤 豊史

(工業化学科: S52年卒)

(工業化学専攻 博士前期課程: S54年修了)

(工業化学専攻 博士後期課程: S58年修了)

平成29年6月の総会で任期満了に伴い第25代会長職を退き、相談役に就任致しました。日本大学校友会の中では最も大きく且つ伝統ある理工学部校友会の会長という大役で、不安の毎日でしたが、歴代会長はじめ多くの校友先輩方より培われてきた揺るぎない組織基盤と校友の皆さまのご厚情、ご協力を賜りながら、何とか責務を果たすことができました。本部や他学部校友会との関係も、長年築かれてきた友好関係・信頼関係のもとに良好な連携の継続・維持に努めることができ、本校友会はもとより校友の皆様に感謝する気持ちで一杯です。



任期中は毎年定例の事業活動での会長としてのミッションに携わることが主でした。周年行事等の大きなイベントはありませんでしたが、本部よりホームカミングデー開催の要請があり、理工学部と共に平成27年と28年に一回ずつ行いました。27年は、毎年11月末に船橋校舎で開催の前会長時代から引き継がれてきた「未来博士工房見学・成果報告会」と「ホームカミングデー」を併催しました。翌28年も同じく船橋校舎にて「桜理祭」最終日11月5日に「未来博士工房見学会」と併催しました。8年前の創設90周年記念時に駿河台校舎で行われたホームカミングデーと比べると小規模でしたが、工房担当の校友会事業委員や学内の先生方はじめ学部事務局等の多大な協力を得て、新卒者など比較的若い年代の校友の参加を中心に27年・28年共に盛況に執り行うことができました。鳥人間コンテストや宇宙エレベーター等の学外コンペでの優秀な成績の祝いも盛り込むなど工科系ならではのホームカミングデーとして、他学部や本部から好評でした。平成29年も同様に「桜理祭」の開催中に新会長のもと盛況に執り行われました。平成30年は高層新校舎が出来上がった駿河台キャンパスで開催となるのでしょうか、何れにしましても来る理工学部創設100周年を見据えて、継続することは意義あることだと思います。

長いようで短く感じた三年間の任期ではありましたが、副会長、常任幹事、役員、事務局の方々の多大なるご支援に改めて感謝申し上げます。後任会長はじめ新執行部へのより一層のご支援を校友の皆様にお願いしまして、退任挨拶とさせていただきます。

新理工学部長就任挨拶

CST×DREAM が築く理⼯学部の新世紀

理⼯学部長 岡田 章

(建築学科: S52 年卒)
(建築学専攻 博士前期課程: S54 年修了)

100 号の刊行、おめでとうございます。学部長就任の挨拶に先立ちまして、心よりお祝い申し上げます。

平成 29 年 10 月より新しい体制がスタートしました。創設 100 周年という記念すべき転換点に学部長を拝命いたしましたことは、理⼯学部の卒業生の一人として大変光栄です。と同時に、これまで本学部の歴史と伝統を築き上げてくださった校友会のみなさまの想いを次の 100 年に繋ぐ重責を感じております。

就任に際し、私は「伝統の再創造」を学部運営の基本コンセプトとして定めました。21 世紀に入りかなりの月日が流れましたが、技術革新はさらに加速し、社会における科学技術の役割は増すばかりです。そうした中で、私たちはどのような学部を目指し、どのような学生を育てていくべきか—答は「一世紀にわたる伝統を堅持しつつ、時代の要請に即応する革新的なイノベーションを目指す」ということでした。

1920 年に日本大学高等工学校を設立した際、創設者である佐野利器先生は「科学、技術を力とした実務者の養成」を目標として掲げました。座学のみならず実学をカリキュラムのコアに据えた教育の成果は、開校してまもなく発災した関東大震災の復興において、期せずして発揮されることとなります。そして、卒業生たちの活躍が社会から高い評価を受け、四年制学士課程の設立へつながっていったのです。工学部を経て理⼯学部となり、名称こそ変わりましたが、私たちは約一世紀にわたり「ものづくり」の担い手の育成に一貫して取り組んできました。そして、この CST マインドは、これからも揺らぐことはないと確信しております。

しかし、その一方で、「もの」の在り方や考え方が、時代の流れとともに変化しつつあるように思います。アナログからデジタルへと転換が進み、いまや IoT (Internet of Things / モノのインターネット) が世界を席巻していることは、その顕著な例といえます。また、昨今は、原発事故に象徴される科学技術への不信や大量消費社会への批判から、「ことづくり」が重視されるようになってきました。

そこで私は、「くものくらくことく」を創造できる「ひとくの育成」を教育の根幹に据え、【CST × DREAM】

というスローガンを掲げました。バラク・オバマ氏は、大統領在職中、科学 (Science)・技術 (Technology)・⼯学 (Engineering)・芸術 (Arts)・数学 (Mathematics) が今後の社会で活躍



するために不可欠であるとして、それぞれの頭文字からこれを「STEAM 教育」と呼び、国家戦略の重要な事項と定めました。この 5 要素は、理⼯学部の教育の柱とも一致しており、いうなれば、理⼯学部は創設以来、STEAM 教育に取り組んできたといっても過言ではありません。

私たちは、そこからさらに進んで、5つの要素が有機的に結びつき、さらにはデザイン (Design) という創造的な行為を通じることで「もの」あるいは「こと」として具現化 (Realization) できる力を涵養する学部 (College) でありたいと考えています。【CST × DREAM】は、すべての頭文字のアナグラムですが、文字通り、学生一人ひとりのユメをリアルにしたいという想いも込めています。

本年 6 月には駿河台キャンパスに地上 18 階の南棟（仮称）が竣工し、9 月からの供用開始を予定しています。理⼯学部の新世紀のシンボルであり、高さ 80 メートルを超える校舎は日本大学随一となります。私たち理⼯学部の教職員は、この新棟に相応しい知力と人間力、そして CST マインドを築き上げるべく、一丸となって邁進して参ります。

最後になりますが、校友会会員お一人おひとりの益々のご発展を祈念申し上げますとともに、創設 100 周年に向けて、これまでにも増してみなさまのお力添えをお願い申し上げ、学部長就任の挨拶とさせていただきます。

- 1977 年 3 月 日本大学理⼯学部建築学科卒業
- 1979 年 3 月 同大学院理⼯学研究科博士前期課程修了
- 1982 年 3 月 同研究科博士後期課程単位取得退学
- 1982 年 4 月 (株) 竹中工務店
- 1990 年 4 月 日本大学理⼯学部建築学科助手
- 2000 年 4 月 同 専任講師
- 2004 年 4 月 同 助教授
- 2007 年 4 月 同 教授
- 2014 年 10 月 日本大学理⼯学部（駿河台校舎）次長
- 2017 年 10 月 日本大学理⼯学部長

震災復興特集（熊本）

熊本地震を体験して

菊池 晟

熊本市在住 技術士
(土木工学科:S42年卒)

2016年（平成28年）4月14日の前震後は暫らく余震が続き収まるものと思っていたが、16日に更に強い本震に襲われた。同じ地点で2回続けて震度7が観測されたのは史上初である。我が家は震源から約11km、一部損壊で済んだが隣家は大規模損壊で仮設住宅住まいである。

交通網が寸断されたなかで緊急対応が執られ迅速な被災者救援が行われた。ライフライン・新幹線や高速道路の主要交通インフラは2週間で復旧された。これは東日本大震災の教訓が熊本に活かされたと思っている。また行政の手の届かないところでのボランティアの働きぶりには感心させられた。

震災による県内の人的被害は震災関連死を含み252名（2018年1月10日現在）。被害総額は熊本県の試算で3兆7,850億円に上る（2016年9月14日時点）。内訳は住宅関連が2兆377億円（全半壊4万3千棟、一部損壊を含め20万6千棟）と半分以上を占め深刻である。

震災から1年9ヶ月、4万人超が仮設住宅住まいを余儀なくされている。公費解体の約3万6千棟はようやく平成30年3月末終了予定である。震源地、益城町の復興土地区画整理事業は順調に進んだ場合2019年から順次、自宅再建に取り掛かれて最終は2021年（震災後5年）になる。自宅再建の動きが広がるなか、迅速な復旧を阻んでいるのは人手不足である。これは少子高齢化、若年層の県外流出といった構造要因が大きく影響している。

甚大な被害を受けた熊本と阿蘇を結ぶ幹線道路も順次復旧し観光業も回復してきている。国交省は国道57号の北側ルート及び阿蘇大橋（国道325号）の全面復旧を2020年度に予定している。また、JR豊肥線・阿蘇鉄道の復旧は2022年を目指している。

公共施設は着々と復旧してきており、市内繁華街は以前の活気を取り戻している。しかし、熊本城に目を向けると至る所が倒壊・崩壊し無残な姿をさらしている。これらは立ち入り可能な「二の丸広場」から一望できる。

熊本市は被害総額634億円で、復旧には20年かかると

見込んでいる。熊本市は熊本城の復旧・復元するため「復興城主」制度を始めている。是非多くの方にご協力願いたい。

私は妻と共に微力ながら、社会福祉協議会を通じ仮設住宅や障害者施設等を訪問し被災者に寄り添い時間と共に変わるニーズを支援者に伝えている。支援していた南三陸町の被災者より今度は支援を受け、絆を深めている。また、原発をはじめ災害の度に繰り返される「想定外でした」は技術者として残念に思う。

地震の報道も少なくなってきた。復興支援の為にも是非観光にでも来て、肌で感じたことを全国に発信して頂きたい。

震災復興は道半ばだが、以前にも増した活気溢れる熊本になると信じている。

熊本・東日本をはじめ各地の被災地復興に日夜取り組んでおられる校友の皆様を陰ながら応援している。

最後に「支えあおう熊本 いま心ひとつ！」
「支えあおう校友会 いま心ひとつ！」



大規模土砂崩れで国道57号・JR豊肥線もろとも阿蘇大橋が崩落した現場 崩壊斜面の上部から安定化工事が始まっている



熊本城の戌亥櫓（いぬいやぐら）と石垣の崩壊状況

被災した益城町体育館の解体

岡田章先生の理工学部長就任を祝う会



(撮影：角 輝)



理工学部校友会と理工学部校友会建築部会の共催開催

日 時：平成29年11月9日（木）18:30より

場 所：ホテルじゅらく

参加者：

理工学部教職員、理工学部校友会役員、地方支部役員

左写真：「記念品（万年筆）贈呈」（学部長室にて）

左から 岡田理工学部長、木田理工学部校友会長

中島理工学部校友会 建築部会長

編集後記

今号は、桜工創刊の1955年（昭和30年）から63年目で、記念すべき100号の発刊となります。

平成29年に理工学部長に就任されました岡田章先生を始め、活躍する校友から100号発刊に寄せてのお言葉を頂き、編集いたしました。また、100号記念として初めて全ページをカラー印刷としました。

中程に記念特集として、1924年（大正13年）高等工学校校友会発足（駿工会・理工学部校友会の前身）からの歴史を、桜工年表（桜工、日本大学、日本の出来事、桜工表紙等を創刊号から）として掲載しましたので完全保存版として楽しんで頂ければ幸いです。

本号全編カラーページの出来栄えに会誌委員会一同感激し、今後も続けていって欲しいと実感いたしました。

本号より理工学部創設100周年となる2020年の「桜工102号」に向けて、校友の皆様のご協力を頂き、理工学部のさらなる飛躍を応援できる桜工を編集してまいります。

また欄外下部には桜工によせられた皆様の声を記させていただきました。

最後になりますが、ご寄稿を頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。

（会誌委員長 佐藤 信）

会 誌 委 員 会

((委員長 ○、副委員長 ○))

○佐藤 信 ○岩井 茂雄 ○角 輝 間宮賀津仁 山崎 栄介 田嶋 和樹 富永 茂 宮城 徳誠 春永 吉雄
太田 延幸 遠山 岳史 出口 真一 加藤 道雄 八田 洋三 居駒 知樹 安部 明雄 佐々木芳樹 石松 琦
高橋 遼

●住所表示・勤務先・TEL番号等の変更是事務局までご連絡下さい。

●クラス会等に『桜工』をお送りいたします。（実費＆送料が必要です。）

●クラス会の様子を桜工「クラス会だより」に掲載しませんか？

会合名・卒年・学科・開催日時・場所・参加人数を含めお知らせください。

*各詳細・問い合わせ等は理工学部校友会事務局までご連絡ください。

〒101-8308

東京都千代田区神田駿河台1-8-14

日本大学理工学部内

日本大学理工学部校友会事務局

TEL: 03-3259-0650

FAX: 03-3293-1370 (江口・田中)

ホームページアドレス

<http://www.koyukai-cst-nu.jp/>

メールアドレス

alumni@koyukai-cst-nu.jp

平成30年度通常総会開催予定

日 時：平成30年6月22日(金)

会 場：東京ガーデンパレス

平成30年3月25日発行

日本大学理工学部校友会

（日本大学工科校友会）



編集・発行者 佐 藤 信

〒101-8308

東京都千代田区神田駿河台1-8-14

電話 03-3259-0650

FAX 03-3293-1370

印刷所 株式会社トーコー印刷